



花と緑を楽しむユニバーサルデザイン

第3回 「ユニバーサルデザインと空間：伝えることの大切さ」

兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授／
兵庫県立淡路景観園芸学校 主任景観園芸専門員 美濃 伸之

ユニバーサルデザインに関する情報を丁寧に提供することは、現場で大変に有用であることが知られています。福祉団体がお出かけ前には必ず下見をするという話を聞いたことがないでしょうか。ここでは、このような際のポイントを2つご紹介したいと思います。

1つ目は、マイナス面を伝えることの大事さです。写真1は札幌市郊外にある国営滝野すずらん丘陵公園。階段や傾斜、路面の状況がサイン等で表示されています。



写真1 路面状況を理解しやすくサイン化された看板

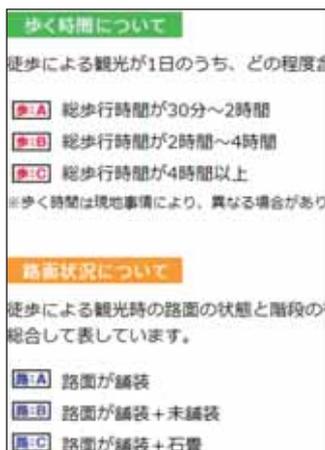


写真2 ツアー内容の路面状況案内

このようなマイナス情報の提供は一見すると否定的な印象を与えますが、利用者にとっては実にありがたい配慮です。なかでも、マイナス面を事前にお知らせすることは、後のトラブルを防ぐという意味合いでも効果を発揮します。写真2は、とある観光ツアーの案内ですが、路面情報と歩く時

間が別途に記載されています。このツアーに参加すると、石畳のところを30分歩く必要があると言った具合です。行ってしまってから、こんなはずでは・・・といったことが防げますし、参加するか否かの判断、持ち物準備などにも有用ですね。

2つ目は活動や参加にかかる目安を伝えることの重要性です。写真3は、米国カリフォルニア州立公園のバリアフリー情報サイトです。ここでは、車いす利用者などが、(どのような活動)を(どの公園)でできるかを検索することができます。バリアフリー化の対象がモノでなく、活動そのものなのです。米国はバリアフリーに関する法律が厳しく、判定する基準が存在するなど、特有の事情があるにせよ、利用者は具体的な楽しみの中身が理解できて、大変にありがたいですね。国内だとまだ見られない配慮で、今後に期待したいものです。

公園緑地でのユニバーサルデザインにおけるソフト支援のうち、実に9割を超えるものが、サインを含めた情報提供にかかる配慮。実施にあたって、あまりお金がかからないのも良いです。みなさんが関わる花と緑の空間でも、このような情報提供のあり方を見直すと、利用者さんの満足度や利便性が高まるかもしれません。



写真3 米国カリフォルニア州立公園のバリアフリー情報サイト

ひょうご
まちなみ
ガーデンショー

●明石

2018ひょうごまちなみガーデンショーin明石 開催報告



「ひょうご花緑物語～明石からのメッセージ～」を開催テーマに9月22日～9月29日の8日間にわたり、明石公園を中心に明石のまちなみを花と緑で彩るガーデンショーが開催されました。

作品を競い合うガーデンコンペ、ガーデン部門「まちなみガーデン」「寄せ植え」「ミニ寄せ植え」「ハンギング・壁掛け、額縁型プランター」と、写真部門の「コミュニティ・職域緑化」「家庭緑化」「学園緑化」をはじめ、県内農業高校11校の出席によるアグリハイスクールガーデン、体験教室、雑貨・飲食店舗、体操などイベントも豊富で期間中延べ9万人のご来場者に楽しんでいただきました。

ガーデンコンペ各部門兵庫県知事賞の紹介

ガーデン部門

今回の応募作品数は291点でした。各部門とも作品の質が年々向上していることが感じられます。その中で、コンペの各部門最高位となる兵庫県知事賞を受賞された作品をご紹介します。(敬称略)



“まちなみガーデン” セブンシスターズ (豊岡市)



“寄せ植え”
寺尾 桂子 (朝来市)



“ミニ寄せ植え”
森 桃代 (養父市)



“ハンギング・壁掛け・額縁型プランター”
宿南 安枝 (養父市)

写真部門



“コミュニティ・職域緑化”
昆陽南公園苗圃を活用する会 (伊丹市)



“家庭緑化”
中谷 邦子 (豊岡市)



“学園緑化”
伊丹市立鈴原小学校

オープニングセレモニーでは、明石フィルハーモニー管弦楽団（たこフィル）の演奏ではじまり、ひょうごまちなみガーデンショー実行委員会糟谷委員長より開催の挨拶とモニュメント除幕式が行われました。

明石公園をメイン会場に、そして明石駅周辺にPRガーデン、明石市立花と緑の学習園・中崎公会堂をサテライト会場としてデモンストレーションガーデン合計13団体を展示しました。

左記のガーデンコンペだけでなく、企業協力により“マンデビラ・ダンディ”単鉢コンテストも行い141点の応募がありました。



“マンデビラ・ダンディ”単鉢コンテスト



キッズフラワーファッションショー



小物作りなどの体験教室



表彰式風景

また明石公園サービスセンター内パークギャラリーにて伝統園芸である“盆栽”や“おもど”の展示を行いました。

西芝生広場では、来場者が気軽に参加できる体験教室が連日開催され、飲食・園芸雑貨物販テントコーナーもたくさんの人で賑わいました。

ガーデンコンペ出展者、体験教室を開催していただきました皆様、テナント出店者の皆様、関係者の皆様、また多数のボランティアの方々にご協力をいただき誠にありがとうございました。

最終日に予定していました“花と緑のまちづくりセミナー”は、台風接近に伴い中止となり、表彰式のみ1日繰り上げて行いました。表彰式では、兵庫県知事賞・兵庫県議会議長賞・明石市長賞の各賞の授与が行われました。



明石フィルハーモニー管弦楽団さんの演奏



サテライト会場 花と緑の学習園（明石市西明石）



農業高校生の育てた苗の販売



キッチンカーや、園芸雑貨の販売



伝統園芸“盆栽”の展示

花緑団体の紹介



祝!

第28回 全国花のまちづくりコンクール 花のまちづくり優秀賞受賞

今年度の、全国花のまちづくりコンクールに、兵庫県から受賞された方々をご紹介します。

「NPO法人にじのかけ橋」 《団体部門》 (西宮市)

【設立の経緯】

平成16年（2004年）に、コミュニティーガーデン作りとして、園芸療法士の宮本瑞枝さんと「やさしい街づくり・花づくり・人づくり」と題した講座から始まりました。

障害者の社会参画の一環として計画を立て、地域の民生委員、婦人会、自治会、他の施設、行政の協力を得ながら、実施場所も決まり活動が開始しました。

【主な活動】

現在、合計4花壇を、6つの障害者施設利用メンバーが輪番制で、土日祝は近隣の住民の活動で手入れします。また園芸活動のボランティアに年3回の植え替えのレイアウトの指導を行っていただいています。

【優秀賞受賞と今後の課題】

今回の受賞により、15年間の地道な活動が認められとても嬉しく、皆で喜びを分かち合っています。障害のある方にとって自信や励みに繋がったのではと信じ、今後も楽しく実りのあるコミュニティーガーデンづくりに努めたいと思います。

「全国花のまちづくりコンクール」とは

提唱：農林水産省及び国土交通省 設立：1991年

目的：国際花と緑の博覧会（花の万博・1990年・大阪市）の基本理念「自然と人間との共生」を継承して花のまちづくりを国民的な市民運動として普及、定着させること。

内容：全国各地で取り組まれている花や緑による優秀な活動を顕彰し、広く紹介する。

4部門（市町村部門、団体部門、個人部門、企業部門）で行われている。



「全国花のまちづくりコンクール」審査基準

詳しくは「全国花のまちづくりコンクール」HPへ

項目	審査の観点
快適な生活環境づくり	地域の緑を大切に育みながら、街並みの景観を損ねる散乱ごみや屋外広告などを積極的に整理するように心がけて活動し、潤いと豊かさが感じられる快適な生活環境づくりや風景づくりがされているか。
エコロジー	環境にできるだけ負荷をかけないような活動や身近な自然を大切にしたり取り組みが行われているか。
花による表現	まちらしさ（地域性）の演出に花がうまくいかされているか。また、地域の歴史的・文化的資産が花のまちづくりにいかされているか。
花のデザイン	花や緑が周辺の風景や街並み、建物と調和し、花壇の花の配置や色使い、季節の演出などがセンスよくデザインされているか。
栽培状況	花殻や生ごみなどを土づくりにリサイクルしたり、農薬などをできるだけ使わないようにしたりして、環境に配慮した取り組みがされているか。また、花の生育特性を考慮して草花を植え、花や緑が健全に生育しているか。
地域の活性化	花のまちづくりにおいて、住民（企業を含む）と行政のパートナーシップ、住民同士の連携などが図られ、公共性の高い場所や地域に向けた場所での活動、オープンガーデンなどが実施され、それらが長続きし、発展するよう取り組まれているか。

「名塩さくら台景観緑化クラブ」 《団体部門》 (西宮市)

【設立の経緯】

自然環境のいい750戸程の住宅地ですが、外周遊歩道には不法駐車や家電などの不法投棄が多く、日中でも歩くのが怖い場所でした。

花壇を作る事で改善されると考え、自治体に働きかけ署名を集め、西宮市に申請し使用許可を得て、平成25年(2013年)に立ちあがりました。

【主な活動】

月2回、2時間程度の維持管理作業をして、月1回花壇の写真を自治会で回覧しています。その他11月に青空カフェを行い花の種や苗を配布したり、子ども会と連携して一緒にチューリップの球根を植えてたりしています。

【優秀賞受賞と今後の課題】

優秀賞受賞はメンバーの励みになり、地域の方々にもなお一層認めていただいたようです。

課題は、若い世代の人達をどう誘って活動に参加して貰うかです。



太田 よしのさん

《個人部門》 (美方郡)

【設立の経緯】

平成13年(2001年)より、夫の出身地である訓谷地区へ移り住み、自宅の花壇づくりや野菜づくりをしていました。

14年に区の呼びかけによる浜の広場の花壇づくりへ参画し、集まったメンバーと16年から地区でオープンガーデンを開催するまでになり、今年で13回目を迎えました。

【主な活動】

年間を通して観光客が訪れ民宿の多い訓谷地区で、組織だった緑化活動は難しいですが“フラワーロードの2鉢運動”として働きかけ、春と秋に花苗を配布しています。現在は50軒で育てていただき点が線となり面となる、地域で無理をしないおもてなしの花づくり行っています。

【優秀賞受賞と今後の課題】

今回、コンクールの優秀事例発表会に出席し、それぞれ共通の課題点があり共感でき励まされました。これから高齢化社会となっていきますが、次世代へ知恵を絞ってまちづくりを繁げて行きたいと思えます。



グリーンメッセージ

アメリカ西海岸紀行～花と緑のまちづくりの視点～ その2

兵庫県参与(花と緑のまちづくり推進担当)
(公財) 兵庫県園芸・公園協会 技術顧問
石原 憲一郎

前号に引き続きアメリカ西海岸紀行の一環で訪れたポートランド市をご紹介します。

オレゴン州ポートランド市は、人口約62万人と米国では中規模の都市ですが、ライトレール・トランジット：LRT（軽量軌道交通）など公共交通機関中心（写真1）で街路樹や緑地も多く環境に優しい都市として有名で、最近では米国で最も住みやすい街として評価されており、その様子を体現したいと世界中から観光客や見学者が絶えません。また、全米有数の素晴らしい日本庭園やバラ園、さらに、毎年6月のローズフェスティバルも魅力的です。我が国の国土政策で目指すコンパクトシティのモデル都市です。

ポートランド市は、過去の成長型都市開発等の教訓に学び、アーバン・グロス・バウンダリー：UGB（都市成長境界線）を市民との協議の上設定し、極めて厳格な土地利用区分・規制を基にまちづくりを行っています。（写真2）

特に、中心部を流れるウィラメット川の氾濫対策としての雨水管理対策を、30年前から、都市再開発など都市の更新にあたり雨水管理の方法の一つとして屋上緑化や緑地帯による雨水の一時的貯留・浸透機能を高める計画を進めてきました。

また、都市施設の老朽化に伴う再生にあっても、「グレインフラ（人工的な基盤）から、グリーンインフラ（緑化による働きを利用した基盤）」への合言葉で改築が進められています。

さらに、個人の庭においても、レインガーデン



写真2 市民との協議でUGBのまちづくりがされた風景（雨水浸透緑地帯）導入などへの市の助成措置も充実し全市挙げて安全・安心のまちづくりに取り組んでいます。

グリーンインフラは、単に雨水貯留効果にとどまらず、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の確保など様々な便益を市民に与えています。

一方、わが国では記憶に新しい、平成30年7月豪雨で、80mm/時間以上という驚異的な雨が長時間降り続き、内水排水が間に合わず下水道管からの吹き出しや小河川の氾濫による浸水で、低地の道路が大きく冠水したり、山の鉄砲水による土砂災害で家屋損壊が発生し多数の尊い人命が奪われています。

ポートランド市は、日本の年間平均降雨量の半分しかないものの、市民と課題解決を共有しグリーンインフラを都市開発やまちづくりに積極的に取り入れ進めてきました。

兵庫県でも、今後、常態化することが指摘されている厳しい気象変化を踏まえ、ポートランド市のグリーンインフラへの取り組みを参考として、都市開発や道路・河川・下水道などインフラ整備、さらに、森林開発保全など相互に連携して行くべきです。

現在、兵庫県下で都市の緑化に大きな効果を発揮している「県民緑税による県民まちなみ緑化事業」においても、防災的視点でグリーンインフラへの対応を検討すべき必要性を大いに感じました。



写真1 LRTが走る市街地の風景

ほっと

●●● 相談員ニュース ●●●

宿根草の魅力と育て方

緑の相談員所長 城山 豊

宿根草とは

一年草は花が咲き、タネができるのと枯れてしまいますが、宿根草は枯れずに翌年以降も生育を続ける草本です。種類によっては短命で2～3年で枯れるものもありますが、何年も生き続けるものもあります。イングリッシュガーデンでよく使われることから、イングリッシュガーデンが流行ったころ、宿根草も注目されましたが、苗単価が高いことや花が終わっても枯れないことから、一作ごとにやりかえる公共の花壇では使われず、一般の人が見る機会は多くはありませんでした。

宿根草の魅力

一方、オープンガーデンやコミュニティガーデンを実施しておられる方には、欠かせない植物となっています。草丈、花色、花型、質感がそれぞれ異なり、種類もたくさんあるので、自分の好みにあった植物が選べます。一季咲きで開花期間が長くないものが多いですが、その分季節感もあります。また、一年草にはない風格や高級感がある植物も多くあります。

育ててみよう

最近再び注目されているのは、実は経費上の理由によるものです。よく「毎年植えなくても咲く」と書かれて販売されていて、いかにも安上がりのようなイメージですが、ほったらかしでよいということではありません。宿根草と一口に言ってもそれぞれ性質は異なり、栽培管理も異なります。植えたままでよいものもありますが、株分けや植え替え、挿し芽や種子で更新しないとけない種類もあります。それぞれの植物に関する知識と管理が必要です。

また、一年草花壇よりも、雑草の管理がより重要になります。うまく育てると殖えていきますから、お友達と交換することもできます。植物の知識と技術を見につけることによって、少ない経費でより芸術性の高いガーデンを作ることができます。宿根草を上手に用いて素敵な花壇作りに取り組みましょう。この冬から早春までの時期が宿根草の植え付け適期となります。



イギリスのボーダー花壇には欠かせない
ペロニカストルム



ロシアンセージなど宿根草を中心に低木、一年草を組み合わせた
「エルフガーデン」(淡路景観園芸学校2017年)

園芸相談コーナー

10:00～12:00

13:00～16:00

火曜日を除く毎日

TEL 078 (918) 2405

FAX 078 (919) 5186

写真や実物をご持参いただきますと、
お話ししやすくなります。

*年末年始12/29～1/3はお休みです

園芸教室

平成30年度 31年1月～3月

場所：明石公園内花と緑のまちづくりセンター研修室

◆印は、小学生以上が対象の教室

実施日	曜日	開催時間	タイトル	講師名	定員 【名】	受講料 【円】	受付 開始日
1 / 13	日	10:00～	◆ 明石公園の自然観察⑦	兼光 たか子	20	100	12/15
18	金	13:30～	植物栽培は土壌づくりから	吉倉 惇一郎	30	100	1/4
25	金	13:30～	バラの手入れ・剪定 <冬> ～鉢植えのバラの管理～	山田 益男	20	100	1/4
2 / 3	日	10:00～	◆ 明石公園の自然観察⑧	兼光 たか子	20	100	1/15
8	金	13:30～	知っているようで知らなかったハーブの魅力！ ⑥～春に向けてのプランニング～	星川 雅子	20	600	1/15
10	日	13:30～	◆ プリザーブドフラワーアレンジ③ 「ひな祭りアレンジ」	松井 敏美	30	1,800	1/15
17	日	13:30～	兵庫の山菜 ～エピソードとおいしい食べ方で食す～ 場所 サービスセンター西館(会議室) TTT food & drink	清水 美重子	20	未定	2/1
24	日	13:30～	◆ 原木きのご栽培にチャレンジ <しいたけ・なめこ>	仲 秀雄	30	800	2/1
3 / 3	日	10:00～	◆ 明石公園の野草を見る・楽しむ・学ぶ④	高野 哲司	20	100	2/15
10	日	13:30～	家庭果樹の作り方 ②～柑橘・キウイ・ぶどうの管理～	武久 正篤	30	100	2/15

★★お申し込み・お問い合わせ★★

受付け開始日 午前9時より先着順

花と緑のまちづくりセンター

TEL 078-918-2405

* 年末年始12/29～1/3はお休みです

infomation

兵庫県の花緑に関する情報、公園でのイベント案内等を、ホームページ・ソーシャルネットサービスを用いて公開しています。是非ご覧ください。

検索：ひょうごはなまち



花と緑のまちづくりセンターだより 47号

●平成30年12月18日(年4回発行)

●編集発行 公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長 堀本 祥子

〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター

TEL: 078(918)2405 FAX: 078(919)5186 Eメール: info_midori@hyogopark.com